

13. その他

議 事

1. 前回議事録の確認

議事録の訂正は次の通り。

		(誤)	(正)
P. 1	1 行	シグマ委員会	→ シグマ研究, 専門委員会
P. 2	1 1 行	機能→機能	→ 機能→ <u>機能</u>
P. 4	1 6 行	誘導する	→ 指導する
〃	2 3 行	怒力した	→ 努力した
P. 5	7 行	炉定数セット ENDF/B を修正し たものを作成し	→ ENDF/B に基づく炉定数 セットを作成し
P. 6	2 行	情報検索	→ 情報検索システム
〃	3 行	中の α Review	→ 中の Review
〃	5 行	変速炉核種	→ 高速炉核種

2. 委員長アナウンス (百田委員長)

- a. 今年の 10 月 6 ~ 10 日にイギリスで開かれる第 13 回 EANDC 会合について。資料 1 の説明をする。

[a. に関連して]

- Progress Report がもうすぐでき上がる。でき次第送付する。
本委員会で Report を吟味したいので、次回にはこの Report を持参されたい。
- Request list について (担当者・五十嵐)
手元に届いた Request は
F.P. 関係 20 件
炉定数関係 3 件
である。これ等を検討して Request list を作る。
- 来年の EANDC の会合は順番としては日本で行なわれる。
開催国が受け持つ Topical discussion のテーマをどうするか?

b. CCDN 1970年の計画について

後日各委員に資料を送る。資料に対するComment をCCDNに送る必要があるのでComment があつたら委員長へ送ること。

c. 前回報告したようにIAEAの核データの国際会議が明年6月ヘルシンキで行なわれる。多数発表するよう準備して欲しい。

3. SCISRS-IIの解説(更田)

資料2をもとにSCISRS-IIについての説明をする。将来原研でもSCISRS-IIの全システムをoperateすることも討論したらどうか。

4. 人 事

。炉定数専門部会の安氏から古橋晃氏と変わりたいという提案があつた。
炉定数専門部会で検討することにする。

。綾尾氏、菊池氏が外国へ行くので専門委員を辞退する。

。シグマ委員会名簿(44年8月1日)の訂正次の通り。

4頁7行の綾尾氏と5頁14行の末広氏は削除する。

5頁5行の工学研究施課は工学研究所

5. NIST(National Information system for Science and Technology)の紹介(長山)

(参考資料3)

資料を中心に、科学技術会議第4部会専門分科会が首相の諮問に対して出した報告書の経緯並びに、その内容についての説明があつた。

現在、報告書が出された段階であり、完成するのは5~10年後である。system中のデータセンターとしては核データ・センター等も一つのモデルとして見られているだろう。NISTのsystemに入つても束縛を受けるようなことはない。

6. データ・シートによる文献収集(坂本)

(参考資料4, 5)

現在までの経過が報告され、今まで集めたデータ・シートは原稿を9月末までにまとめ今年中に出版することになった。尚今後の作業についてはさらに検討が続けられる。

(質疑応答)

。原稿はできているのか?

。できている。9月中にまとまる。データ・シートの枚数は5,000～8,000枚に及ぶ、JAERI memo で2冊。

今後の作業に関しては、具体的な案を専門部会で作成し本委員会に提出してもらうことになった。

7. 研究会（桂木）

来年の8月頃高速炉の炉定数に関する研究会を行なう。内容としては次のことを考えている。

- (1) 核データのファイル
- (2) 炉定数の処理
- (3) 従来のものとの比較

今年度中にもつとつめていくつもりである。

8. 保留金

保留金は現在150万ある。これに対して要求は次の通りである。

SCISRSデータのプロット（核データ研）	100万
重元素の $\sigma_{el}(\theta)$, $\sigma_{inel}(\theta)$ （情報・評価部会）	30万
運営費（旅費）	20万
計	150万

各要求事項についての説明の後、承認された。

9. 高速炉、炉定数セットの報告書（桂木、小林）

上記の報告書が、近日中に完成し、動燃事業団に提出するが、その際、シグマ研究委員会の名前で報告書を作成したい。同報告書は有効に使用され、かつその feedback が得られることを条件として希望される各機関に配布されるであろう。

10. 遮蔽定数小委員会第6回会合議事録の説明（片岡）

資料6の説明をする。

11. 炉定数の評価

次の議題と合わせて討論することになったが、特に具体的には討論されなかつた。

12. 核データ・センターとシグマ委員会、基本方針等

資料7をもとに核データ・センターについて西村氏と鈴木氏から説明のあつた後討論に入る。討論の内容を概略すると次の通りである。

- a. 核データ・センターの機能、及び仕事の内容について

長期的見通し(25人のメンバー)に立つた議論と短期的(45年度6人のメンバー)計画の議論とが交錯した。

b. 核データ・センターとシグマ委員会及びワーキング・グループについて

委員会は核データ・センターを指導していく立場に立つ。委員会のワーキング・グループは、センターの充実に伴って漸次解消していく。

センターの全貌の具体像をえがいてみることは、議論を収斂させる上で有効であると考えられるので、核データ研究室で具体像を作成し、幹事会を通して次回委員会に提出してもらうことにする。

13. その他

次回の日時、議題は幹事会に一任する。